

## ゼミノート #5

# Categorical Part of Descent Theory, and Stacks

七条彰紀

2018 年 11 月 28 日

今回のノートで一貫して用いる記号と記法を定める。

$\mathbf{C} :: \text{site}, \pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{fibered category}$  を考える<sup>†1</sup>。

記法を定める。  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i: U_i \rightarrow U\}_{i \in I} \in \text{Cov}(U)$  について,

$$U_{ij} := U_i \times_U U_j, \quad U_{ijk} := U_i \times_U U_j \times_U U_k \quad (i, j, k \in I)$$

と書くことにする。また, 添字  $a, b = i \text{ or } j \text{ or } k$  について, fiber product からの射影を

$$\text{pr}_a: U_{ij} \text{ (or } U_{ijk}) \rightarrow U_a, \quad \text{pr}_{a,b}: U_{ijk} \rightarrow U_{ab}$$

とする。さらに  $\text{pr}_i: U_{ij} \rightarrow U_i$  による pullback を  $(-)|_{U_{ij}}$  などと書く。

## 1 The Category of Descent Data

### 1.1 Definition

定義 1.1 ( $\mathcal{F}(\mathcal{U})$ , [2] 4.2.4, [1] Def4.2)

圏  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  を次のように定める。

Object.

- $\xi_i \in \mathcal{F}(U_i)$  なる対象の class  $\{\xi_i\}_{i \in I}$  と,
- $\mathcal{F}(U_{ij})$  中の同型  $\sigma_{ij}: \xi_j|_{U_{ij}} \rightarrow \xi_i|_{U_{ij}}$  の class  $\{\sigma_{ij}\}_{i,j \in I}$

の組  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})$  であって, 以下で述べる cocycle condition を満たすもの。このような組を object with descent data と呼ぶ<sup>†2</sup>。

Arrow.

射  $\{\alpha_i\}: (\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) \rightarrow (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\})$  とは,  $\mathcal{F}(U_i)$  の射  $\alpha_i: \xi_i \rightarrow \eta_i$  の class であって,  $\sigma_{ij}, \tau_{ij}$  と整合的であるもの。すなわち, 任意の  $i, j \in I$  について以下の図式が可換であるもの。

$$\begin{array}{ccc} \xi_j|_{U_{ij}} & \xrightarrow{\alpha_j|_{U_{ij}}} & \eta_j|_{U_{ij}} \\ \sigma_{ij} \downarrow & & \downarrow \tau_{ij} \\ \xi_i|_{U_{ij}} & \xrightarrow{\alpha_i|_{U_{ij}}} & \eta_i|_{U_{ij}} \end{array}$$

<sup>†1</sup> ほとんど fiber of  $\pi$  しか扱わないので, psuedo-functor  $\mathbf{C} \rightarrow \mathbf{Cat}$  をとつても構わない。

<sup>†2</sup> 同型の class  $\{\sigma_{ij}\}$  が descent data と呼ばれる。

■**cocycle condition** 組  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})$  が cocycle condition を満たすとは、任意の  $i, j, k \in I$  について以下が成り立つということ.

$$\sigma_{ik}|_{U_{ijk}} = (\sigma_{ij}|_{U_{ijk}}) \circ (\sigma_{jk}|_{U_{ijk}}).$$

図式でかけば、圏  $\mathcal{F}(U_{ijk})$  における以下の図式が可換であることと同値.

$$\begin{array}{ccc} \xi_k|_{U_{ijk}} & \xrightarrow{\sigma_{jk}|_{U_{ijk}}} & \xi_j|_{U_{ijk}} \\ & \searrow \sigma_{ik}|_{U_{ijk}} \quad \swarrow \sigma_{ij}|_{U_{ijk}} & \\ & \xi_i|_{U_{ijk}} & \end{array}$$

### 注意 1.2

この定義に於いて fiber products  $:: U_{ij}, U_{ijk}$  を暗黙のうちに選択している. たが、どのように選択しても得られる圏は同型に成る.  $U_{ij}, U_{ijk}$  の選択も込めて  $(\{\xi_i\}, \{\xi_{ij}\}, \{\xi_{ijk}\})$  を  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の対象とする定義の仕方も有るが、ここでは述べない. 詳細は [1] Remark 4.3 にある.

定義 1.3 ([1] p.72)

$\xi \in \mathcal{F}(U), \mathcal{U} = \{\phi_i: U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$  について、 $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の元を以下のデータに対応させる:

- $\xi_i := \phi_i^* \xi$  の class  $\{\xi_i\}_{i \in I}$ .
- $\xi_i|_{U_{ij}}$  と  $\xi_j|_{U_{ij}}$  が, いずれも

$$\phi_i \circ \text{pr}_i = \phi_j \circ \text{pr}_j: U_{ij} \rightarrow U$$

による  $\xi$  の pullback であることから得られる標準的同型の class  $\{\sigma_{ji}: \xi_j|_{U_{ij}} \rightarrow \xi_i|_{U_{ij}}\}_{i,j}$ .

このデータをまとめて  $(\{\phi_i^* \xi\}, \text{cano})$  などと書く. この対応を  $\epsilon_{\mathcal{U}}: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$  と書く.  $\mathcal{F}(U)$  の射  $\xi \rightarrow \eta$  から、 $\phi_i$  に沿った pullback によって  $(\{\phi_i^* \xi\}, \text{cano}) \rightarrow (\{\phi_i^* \eta\}, \text{cano})$  が得られるので、対応  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  は関手である.

## 1.2 Example

例 1.4 ([2], 4.2.1)

一つの射から成る cover  $:: \mathcal{U} = \{f: V \rightarrow U\}$  について  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  を考えてみる. この圏の対象は、

- 対象  $E \in \mathcal{F}(V)$
- $\mathcal{F}(V \times_U V)$  の中の同型射  $\sigma: \text{pr}_1^* E \rightarrow \text{pr}_2^* E$

の組である.

例 1.5

## 2 Stack / Prestack

### 2.1 Definition

定義 2.1 (Prestack, Stack)

関手  $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$  を用いて以下のように定義する.

- (i) 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$  について  $\epsilon_U :: \text{fully faithful}$  である時,  $\mathcal{F}: \mathbf{C} \rightarrow \mathbf{Cat}$  は prestack である, という.
- (ii) 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$  について  $\epsilon_U :: \text{equivalence}$  である時,  $\mathcal{F}: \mathbf{C} \rightarrow \mathbf{Cat}$  は stack である, という.

定義 2.2

関手  $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$  を用いて以下のように定義する.

- (i)  $\epsilon_U :: \text{equivalence}$  となる  $\mathcal{U}$  を of effective descent for  $\mathcal{F}$  と呼ぶ.
- (ii)  $\epsilon_U$  の像と同型である  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の対象を, effective という.

注意 2.3

prestack の定義は以下のように言い換えられる: 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i: U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$  をとる. descent data  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}), (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\}) \in \mathcal{F}(\mathcal{U})$  について,  $\xi_i \cong \phi_i^* \xi, \eta_i \cong \phi_i^* \eta$  となる  $\xi, \eta \in \mathcal{F}(U)$  が存在すると仮定する.  $\{\alpha_i\}: (\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) \rightarrow (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\})$  (すなわち条件を満たす射の class  $\{\alpha_i: \xi_i \rightarrow \eta_i\}$ ) について,  $\mathcal{F}(U)$  の射  $\alpha: \xi \rightarrow \eta$  が一意に存在し,  $\alpha_i = \phi_i^* \alpha$  となる.

標語的に言えば「射の貼り合わせが一意に存在する psuedo-functor」となる.

### 2.2 Example

### 2.3 Proposition

命題 2.4 ([1] Prop4.9)

- (i) separated sheaf of sets is a prestack.
- (ii) sheaf of sets is a stack.

(証明).  $\mathbf{C} :: \text{site}, \mathcal{F}: \mathbf{C}^{op} \rightarrow \mathbf{Sets} :: \text{presheaf}$  とする.  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$  を任意に取る.

今, 圏  $\mathcal{F}(U), \mathcal{F}(\mathcal{U})$  は集合 (離散圏) である. なので関手  $\epsilon_U: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$  は写像である. さらに射  $\sigma_{ij}$  も恒等射しかないから,  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の対象は, 任意の  $i, j$  について  $\xi_i|_{U_{ij}} = \xi_j|_{U_{ij}}$  を満たす  $\xi_i \in \mathcal{F}(U_i)$  の族  $\{\xi_i\}_i$  であると考えて良い. このセミナーノートの session3 の記号を用いれば,  $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$  ということになる.

二つのデータ  $\{\xi_i\}, \{\eta_i\}$  の間の射もやはり恒等射しかないから, 「関手  $\epsilon_U$  が  $\text{fully faithful}$  である」という仮定は「写像  $\epsilon_U$  が単射である」と言い換えられる. これはすなわち,  $\mathcal{F}$  が separated presheaf であるということである.

「関手  $\epsilon_U$  が  $\text{essentially surjective}$  である」という仮定は「写像  $\epsilon_U$  が全射である」と言い換えられるから.

$\epsilon_{\mathcal{U}}$  が equivalence であることは  $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$  と  $\mathcal{F}(U)$  の間に全単射が存在するということである。これはすなわち、 $\mathcal{F}(U)$  が sheaf であるということである。 ■

## 参考文献

- [1] Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008).
- [2] Martin Olsson. *Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications)*. Amer Mathematical Society, 4 2016.